

小山町の湧水は・・・【湧水の水質調査の結果】

齊藤 薫 (千葉市緑区在住)

ちばコープの「ちばコープ水辺の環境調査」を昨年10月に行ない、その結果説明会が2月末にありましたので、少し遅くなりましたが報告いたします。

東京湾に流れる村田川の源流域である小山町の2ヶ所の湧水で調査をしました。湧水は台地の上に降った雨や雪が10~20年とも言われる時間をかけて山の微生物の作用を受けながら山裾から湧いてでてきています。1年を通して水温15~16度、水量も一定しています。水質分析の結果はA~Dの4段階で評価されています(Aが最も良好)。

小山町の谷津ではあちらこちらからこのような水が湧いてでてきており、この湧水を利用した米づくりが昔から行なわれてきています。また、この湧水が集まり村田川となり、板倉町、大椎町、そして市原市とさまざまな地域の田んぼの水として利用されているため、その水質調査は重要な意味があると思います。

調査のため採取した水の1つはYPP田んぼに注ぐ湧き水です。湧き水から流れ出た水が「デビ」という土水路を通過して村田川の源流に注いでいきます。ここでも貴重な動植物が生息しています。

この湧水が出てくる山の上は、むかし馬を放牧していたところを畑にした広い台地と、杉林や雑木林があります。硝酸性窒素の数値は2,79mg/lでCランクとなっているのは、肥料として畑に施用され、植物に使い切れなかった窒素が土壌中の微生物によって硝酸性窒素となって地下水に入ったのではとの説明を受けました。人の健康保護に関する環境基準では、基準値:10mg/lですのでまだ安全値といえます。寸評でも「良い場所のようですね。デビという言葉ははじめて知りました。硝酸性窒素に気をつけてください。」というアドバイスをいただきました。

もう一ヶ所はゴウシ谷(やつ)という谷津入口で採取しました。ここは谷津の奥がゴルフ場ということもあり、水への影響も懸念されましたが、全く問題はありませんでした。前者ほど生きものの姿は確認できませんが小さな流れの中に水生の動植物が見られます。寸評も「自然が豊かで、とてもきれいな水です。近頃は、湧水に硝酸性窒素が多く含まれることが多いのですが、ここは少なくいいと思います。千葉県ではこのようにきれいな水質の場所が少なくなってきました。継続して観察してください。」とのことでした。

子ども達が素足で田んぼに入って遊び、田植えや稲刈りができること、またこのきれいな水が作物の養分となって、おいしく安全なお米や麦が収穫できることがわかり安心しました。この湧水の恩恵を受けているサワガニ、カワニナ、オニヤンマのヤゴなどの生きものたちや植物たちが居心地の良い環境でいられるよう、今年も調査を行なう予定にしています。



	YPP田んぼ	ゴウシ谷
自然度評価	A	A
科学的酸素要求量	A	A
合成洗剤残留値	A	A
亜硝酸性窒素	A	A
リン酸性リン	A	A
アンモニア性窒素	A	A
硝酸性窒素	C	A
導電率	A	A
pH	B	A

大椎小学校の田植えと自然観察会

5月28日に大椎小学校の5年生が小山で田植えと自然観察をしました。田植えをしたのはアシ原だった場所をこの春みんなが田んぼに復元した場所。田の字型に分かれた田んぼにクラスずつ4クラスが田植えをしました。みんな裸足になってワイワイ、キャーキャー、にぎやかにでも顔はちょっと真剣にきれいに稲を植えました。自然観察では田んぼにいる生きものを探しました。オタマジャクシにカエル、サワガニやドジョウなどあちこちから「見つけた!」という歓声が上がります。子どもたちの目の良さに驚かされました。

詳しい様子は来月号の谷津田だよりで詳しくお知らせしますのでお楽しみにどうぞ。

高山邦明



田んぼに身を乗り出して生きものさがし

田んぼのヘビ : ヤマカガシとヒバカリ

谷津田で一番よく見かけるのがヤマカガシです。大きいものでは 140cm くらいになるものもいるようですが、数十 cm くらいの個体をよく見かけます。赤と黒の模様が交互に並んだ派手な模様が特徴でよく目立ちます。人の気配を感じるとすぐに逃げる臆病なヘビで、コンクリート水路に落ちて流されているのを見かけることがよくあります。そんな時助ける際には要注意。実は強い毒を持ったヘビで奥歯でかまれると出血が止まらなくなり死亡例もあるそうです。ただおとなしくて人にかみつくのはめったにないことや奥歯でしっかりかまれないと毒が入らないので以前は毒ヘビとは思われていませんでした。このヘビで遊んだ記憶のある大人の方もいらっしゃるのでは？ヤマカガシの首には別の毒腺があって危険が迫ると相手の目に向かって毒液を飛ばし、ひどい場合には人が失明することもあるそうですからこちらにも注意が必要です。餌として食べるヒキガエルを首に蓄えて使っているというから驚きです。マムシに比べるとかまれる被害の例ははるかに少ないようですが、捕まえたり、いじめたりするのは大変危険ですから絶対に止めましょう。



田んぼに現れたヤマカガシ。お腹が膨れているのは何かを食べた証拠
(下大和田にて撮影:網代春男)

ヤマカガシが田んぼにやってくる理由は餌となるカエルがたくさんいるからです。カエルをくわえている様子や餌を飲み込んでお腹が膨れているのを目撃することがよくあります。大きくて毒があるヒキガエルまで食べるというのは驚きですね。時には水の中にいる魚を食べることもあるそうです。ほおずき(古語で「かがち(輝血)」)の色に似た赤い目をしていることからヘビのことを古い言葉でかがち/かがしと呼び、ヤマカガシとは山のヘビとか大きなヘビという意味なのだそうです。

もう一種類、田んぼや周辺の水路でよく見かけるヘビがヒバカリです。体長は 40~60cm ですが、他のヘビに比べると細くてヒモか鉛筆のようです。とてもおとなしいヘビでかみつくことはまずないので、子どもたちに人気のヘビです。体全体は茶色ですが、首にえり巻きのような白い模様があるのが特徴です。「かまれたらその日ばかりの命」ということでヒバカリと名付けられたそうですが、毒は全くなく谷津田で一番安全なヘビとあって間違いありません(でもいじり過ぎには注意を!)。ヤマカガシ同様、田んぼにカエルなどを食べに来ますが、水中にいるオタマジャクシも大好物で水の中に頭を入れて餌を探しているのを見かけることがあります。ミミズも食べるそうです。

(高山邦明)



稲刈りあとの田んぼでつけたヒバカリ (下大和田にて撮影:網代春男)



首にななめに走る白い模様が特徴。目が大きくてかわいい顔も人気の秘密 (下大和田にて撮影:高山邦明)



里山たんけんレポート

第 100 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2008 年 5 月 4 日(日) くもり

シュレーゲルアオガエルの大合唱が心地よく谷津に響いていました。新たに発見したホタルカズラの群落を見ました。驚くばかりの密度で群落を作って、満開です。花も生きものも賑やいでいました。広場ではオランダミミナグサとミミナグサ、カラスノエンドウとカスマグサと一緒に咲いています。道端に侵入してきた外来種のナガミノヒナゲシは広がって欲しくないので抜いたり、実を取りながら歩きました。オオカワトンボがたくさん発生しています。目に付くのはオスばかりでしたがメスは少し遅く出てくるのでしょうか。羽化したばかりのヤマサナエが枝にじっととまっていたりもしました。田んぼの縁にはシュレーゲルアオガエルの白い卵塊があちこちに見られました。ニホンアカガエルのオタマジャクシは子ガエルになり始め、畦の脇でたくさん跳ねていました。まだ尾が残っているものもいました。林縁はクサイチゴがたくさん咲いています。シーズンには実が食べられそうです。谷津全体でも今年は花つきがよいようです。山にはツクバキンモンソウ、ホウチャクソウ、ウラシマソウ、マムシグサ、キンランなども咲いています。

(参加者 大人 11 名・子ども 2 名； 報告：網代春男)

第 84 回 下大和田 YPP「みんなでわいわい！コシヒカリの田植え」

2008 年 5 月 17 日(土) くもり

5 月らしいさわやかな天気恵まれて下大和田のコシヒカリの田植えをしました。二人の方が水牛のように角材を引っ張って最初に田均ししてくれました。水位を調整して準備 OK、いつものように縄を張ってそこに付いた目印に沿って植えました。苗取り係は苗代から苗を大事にとって田んぼに運ぶのに大忙し。子どもたちもがんばってくれていつものように午前中にコシヒカリ田んぼ、お弁当のあとカヤネズミ田んぼの田植えを終えることができました。今回はインターネットテレビ・子ども放送局の番組製作部隊が入り、子どもたちがレポーター役を務めてくれました。5 月も半ばを過ぎ、今年生まれのアカガエルの上陸がはじまり、代わってシュレーゲルの小さなオタマが泳ぎ始めました。ホトトギスの「特許許可局」も今年はじめて聞きました。生きものたちの元気の良さが直に伝わってくる季節です。



田植えを終えてみんなで記念撮影 (撮影：田中正彦)

(参加者 大人 20 名、小中学生 6 名、幼児 3 名 報告：高山邦明)

第 33 回 小山町 YPP「古代米の苗代づくり」

2008 年 5 月 6 日(火・祝) 晴れ

すっきりしない天気が続いていた連休でしたが、最後になってようやく気持ちよい青空に恵まれました。子どもたちもたくさん来てくれて元気な声が谷津に響き渡ります。子どもたちがスコップで泥を盛って田んぼの一角に苗代を作ってくれました。蒔いたのは緑米と黒米。1 週間前から水に浸けておいたのでちょうど芽が出たところです。蒔いた上からペタペタと素手でやさしくたたいて泥に埋め、最後にネットをかけて苗代の出来上がりしました。生きものたちも久しぶりのよい天気気持ちいいのでしょうか？ 田んぼで作業をしているとシュレーゲルアオガエルが飛び出してきたり、ケラやタイコウチが顔を出したりするので、その度に歓声が上がります。最後は泥んこ投げ大会になって一段とにぎやかになりました。子どもたちが走り回ってくれたお陰で田起こしが不要ないくらいうまく田んぼがかき回されて 6 月の田植えを待つばかりです。



小学生がスコップを使って苗代を作ってくれました

(参加者 大人 10 名、小中学生 7 名、幼児 1 名； 報告：高山邦明)

谷津田・季節のたより

小山町

- 5月2日 上空をサシバが飛翔(松下)
- 5月5日 ホタルカズラが咲き、シュレーゲルアオガエルの孵化がはじまる(高山)
- 5月9日 復田した大椎小田んぼでシオヤトンボが産卵(齊藤)
- 5月18日 アシ原でオオヨシキリ、上空でホトギスがさえずる。今年生まれのアカガエルが上陸(高山)
- 5月24日 ドクダミが咲き始める。サルトリイバラを食べるルリタテハの幼虫。アズマヒキガエルの小さなカエルの姿(高山)
- 5月28日 ヤマサナエが飛ぶ(高山)
- 6月1日 斜面林で開花したスイカズラが甘く香る(高山)

下大和田

- 5月17日 田んぼの畦で今年生まれのアカガエルがはねる。ヤマサナエを見かける(平沼)。



サルトリイバラの葉裏にいたルリタテハの幼虫
(小山にて撮影:高山)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

第34回 小山町 YPP「古代米の田植え」

5月に作った苗代で育った黒米と緑米を植えます。雑草がどんどん伸びる季節なので田んぼの周りや放棄田の草刈りもしたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

日時: 2008年6月28日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物: 長靴(できれば長め) 軍手、飲み物、敷物など

参加費: 100円(資料代など)



上陸したばかりのアズマヒキガエル (小山にて:高山)

第102回 下大和田7月の谷津田観察会とごみ拾い

夏の樹液に集まるカブトムシなど子供達に人気の虫も見られるでしょう。生き物が最もたくさん現れる時期です。夏の自然を観察しながら散策します。午前中はみんなで谷津を散策し、午後は田んぼの作業などをします。

日時: 2008年7月6日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場向かいラーメンショップ脇に10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

谷津田の自然展覧会

春から初夏にかけての谷津田の動植物や、谷津田での活動の様子をたくさんの写真で紹介いたしますので、ぜひお出かけください

日時: 2008年6月8日(日)~18日(土)

場所: あすみが丘プラザ1階ロビー(千葉市緑区) 入場無料

主催: ちば環境情報センター

編集後記 斜面林の裾がウノハナで白く彩られ、スイカズラが甘い香りを放り、ホトギスがしきりにさえずりながら谷を渡っていきます。この季節になると必ず口ずさみたく歌が「夏は来ぬ」です。卵の花の匂う垣根に時鳥早も来鳴きて忍び音もらす夏は来ぬ、さみだれの注ぐ山田に早乙女が裳裾濡らして玉苗植うる こういう歌はぜひ歌い継いでいきたいのですが今の子どもたちは学校で教わらないそうです。でもそもそも歌詞に歌われている景色が実感として湧いて来ないと意味がないかもしれません。日本人として今も昔も変わらない原風景を持ち続けていくことが自然環境を保全する基本かもしれません(高山邦明)